

イジングモデルのモンテカルロ法

須賀勇貴

2023 年 10 月 24 日

モンテカルロ法とは乱数を使って積分や和を行う手法である．ここでは，期待値の和を乱数を用いて調べる．あるスピン配位 C の実現確率を

$$P(C) = \frac{1}{Z} e^{-\beta E[C]} \quad (1)$$

として確率的にスピン配位 C を生成して，生成したスピン配位 C を使った平均を用いて期待値を推定する手法をとる．

しかし，スピン配位 C の実現確率 (1) は直接計算できない．なぜなら，分母の分配関数 Z を計算するために，結局全ての配位の和を計算する必要があるからである．そこで，分配関数 Z の計算を避けてスピン配位を生成できつつ手法であるマルコフ連鎖モンテカルロ法 (Markov chain Monte-Carlo) を以下で説明する．

1 マルコフ連鎖モンテカルロ法

今，調べたい期待値は一般的に

$$\mathbb{E}[f(C)] = \sum_C f(C) P(C) \quad (2)$$

と書ける．ここで $f(C)$ は配位の関数で，例えば磁化率などである．また， \sum_C は可能なスピン配位についての多仕上げを表す．格子点の数が K 個であるとき，イジングモデルなら 2^K 個の足し算になる．これを

$$\mathcal{C} = \{C_1, C_2, C_3, \dots\} \quad (3)$$

という 2^K よりもずっと短い列の平均に置き換え，

$$\mathbb{E}[f(C)] \approx \frac{1}{|\mathcal{C}|} \sum_{C_k \in \mathcal{C}} f(C_k) \quad (4)$$

を代わりに評価したい．ここで $|\mathcal{C}|$ は配位の数を表す．当然，適当に作った列では正しい期待値を与えないが，以下を満たす $P(C_a|C_b)$ に従って C を生成すれば正しい期待値を与えることが知られている．

$$P(C_a|C_b)P(C_b) = P(C_b|C_a)P(C_a) \quad (5)$$

この証明は大数の法則による．ここで条件付き確率 $P(C_a|C_b)$ は遷移確率とよばれ，この式は詳細釣り合い (detailed balance) の式と呼ばれている．乱数を使ったアルゴリズムをモンテカルロ法と呼ぶが，上のような確率的に配位の列を作るアルゴリズムをマルコフ連鎖モンテカルロ法という．

イジングモデルに対するメトロポリス法

マルコフ連鎖モンテカルロ法の中で最もシンプルな手法であるメトロポリス法について見ていく．ある配位 C_b と C_a を比較したときに C_a のエネルギーの方が低い場合，つまり $E(C_b) > E(C_a)$ を考える．この場合は C_a の方がエネルギー的に安定なので， C_b から C_a への遷移確率を

$$P(C_a|C_b) = 1 \quad (6)$$

ととることとする．このとき，詳細釣り合いの式は

$$P(C_b) = P(C_b|C_a)P(C_a) \quad (7)$$

となる．これより， C_a から C_b の遷移確率が決まってしまう，

$$P(C_b|C_a) = \frac{P(C_b)}{P(C_a)} = \frac{e^{-\beta E(C_b)}/Z}{e^{-\beta E(C_a)}/Z} = e^{-\beta(E(C_b) - E(C_a))} \quad (8)$$

となる．

したがって， C_a から C_b の遷移確率として，

$$P(C_b|C_a) = \begin{cases} \exp\left[-\beta(E(C_b) - E(C_a))\right], & E(C_b) > E(C_a) \\ 1, & E(C_b) < E(C_a) \end{cases} \quad (9)$$

とすると詳細釣り合いの式を満たすことになる．このアルゴリズムをメトロポリス法と呼ぶ．

メトロポリス法をイジングモデルに適用する場合の手順をまとめる．

1. 適当な配位 C_1 を用意する．
2. 以下を $i = 1, 2, 3, \dots, N_{\text{conf}}$ まで繰り返す，
 - (a) C_i のあるサイトのスピンを反転し，その配位を C'_i とおく．
 - (b) エネルギー $E(C_i)$ と $E(C'_i)$ を計算する．
 - (c) $E(C_i) > E(C'_i)$ なら $C_{i+1} = C'_i$ とし， $i \rightarrow i+1$ において (a) へ戻る． (受理 (accept))
 - (d) 乱数 $r \in [0, 1]$ を用意し， $\Delta E = E(C'_i) - E(C_i)$ に対して， $r < \exp(-\beta\Delta E)$ ならば $C_{i+1} = C'_i$ とし， $i \rightarrow i+1$ において (a) へ戻る． (受理 (accept))
 - (e) $C_{i+1} = C_i$ とし， $i \rightarrow i+1$ において (a) へ戻る． (棄却 (reject))

ここで，「棄却」は提案された配位を使わずに前の配位をそのまま次の配位として受け入れるという意味であることに注意してほしい．

上記の手順に従うと，配位の列

$$\mathcal{C} = \{C_1, C_2, C_3, \dots, C_{N_{\text{conf}}}\} \quad (10)$$

が得られる．しかし最初の方の配位は適当に選んだ初期配位の影響を受けているため，期待値の計算に含めてはいけない．例えば $N_{\text{disc}}(1 < N_{\text{disc}} \ll N_{\text{conf}})$ 番目 (disc は discard の略) まで除いたとすると，

$$\mathbb{E}[f(C)] \approx \frac{1}{N_{\text{disc}} - N_{\text{conf}}} \sum_{k=N_{\text{disc}}}^{N_{\text{conf}}} f(C_k) \quad (11)$$

のように期待値を計算できる． N_{disc} は配位ごとの物理量を観察して初期配位の影響がなくなったあたりの番号をとればよい．

イジングモデルの熱浴法